



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Nov. 1983

II-5

THEME (1983~'84)

- I. P. REACHING OUT
 `手を差し伸べて`
 R. D. CREATIVE POWER
 `創造への熱情`
 D. G. 兄弟の愛をもって
 P. ONWARD CENTENNIAL

PART II

▽「YMCA-ASF」強調月間〈日本区〉

11月例会プログラム

とき 11月16日(水) 18:30~20:30
 ところ YMCA国際・社会奉仕センター

司会 松添 杜 君

1. 開 会 山中 会長
2. ワイズソング 一 同
3. 聖句朗読 安福又四郎君
4. ゲスト紹介 山中 会長
5. 食前感謝「日々の糧」— 晩さん 一 同
6. 役員会報告 山中 会長
7. スピーチ「大奥御菓子秘話」
 創業寛政2年 総本家駿河屋第66代
 岡本 公一君
8. 誕生日のお祝い
9. EMC・タイム 杉本EMC委員長
10. ニコニコ・アワー 黒田 厳之君
11. 委員長報告・YMCAニュース
12. 閉 会 山中 会長

▲例会当番(杉本、黒田、田中、大野、松添、安福)

- 11月は100%出席チャレンジの月。メネット同伴でおいで下さい。出席者全員に奨励賞を準備しています。
- 又アヌクラブへ交歓写真として送る、チャーター一周年記念写真の撮影も当夜行います。
- 「大奥御菓子秘話」にちなんで、総本家駿河屋より全員に銘菓を差し上げます。又「大奥伝承御菓子づくり」の錦絵など珍しい図鑑も特別に拝見できます。

▽誕生日おめでとう

山村 幸明 君	1934年11月 6日
山中ちあき メネット	11月 8日
桂 知良 君	1934年11月11日
横山 和子 メネット	11月13日
山中 秀男 君	1933年11月28日
中野 豊 君	1951年11月29日

Then Jesus told them, "You are going to have the light just a little while longer. Wark while you have the light, before darkness overtakes you. The man who walks in the dark does not know where he is going. Put your trust in the light while you have it, so that you may become sons of light."

イエスは答えた。「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか知らない。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」

(ヨハネによる福音 12章35~36節)

10月例会 出席者(在籍会員35名)

	第1例会	第2例会	Make up	集 計
メ ン	20名	15名	5名	25名
出席率	57.14%			71.43%
メネット	7名			
コメット	1名			
ヴィジター	1名			
新 人	2名	1名		
合 計	31名	16名		

- ヴィジター 森田恵三君(京滋部部長)
- 新 人 疋田義明君(谷河君)
 阪口芳良君(田中君)
 照屋貞夫君(桂 君)
- メ ネット 黒田、柴田、鈴木、長安、森田、山田、
 山中各メネット
- コメット 柴田佳苗さん
- ニコニコ 21,710円(累計60,210円)

▽結婚記念日おめでとう

黒田 厳之・俊子夫妻	11月 8日
谷川 寛・有美子夫妻	11月 8日
安福又四郎・節子夫妻	11月15日
長安 敏夫・美和子夫妻	11月17日
鈴木 謙介・美藤夫妻	11月23日
中村 隆幸・幸枝夫妻	11月23日
藤本 史郎・まち子夫妻	11月25日

今月の聖句によせて

黒田 蔵之

もしある人が人生途上でつまずき、もう取り返しのできない失敗をやってしまったと絶望感をもった時に、この聖句は無限の励ましになると思う。なぜなら「光は、もうしばらくの間、あなたたちの間にある」と教えている。従ってどんなに絶望した時でも、必ず神が一筋の解決の道を与えてくださり、その絶望を希望に変える力を持たせてくださるからである。

“親睦こそY'Sの原点”——10月例会から——

10月例会は、ゲストスピーカーに京滋部部長・森田恵三氏を迎えて、チャーター2年目に入ったセンチナール・ワイズダムに大きく活を入れて頂いた。

森田氏は京都クラブから京都パレスのチャーターメンバーとして活躍、さらに京都ウエスト設立の中心となりその初代会長をつとめられた。本年誕生した京滋部の初代部長である。京都ウエストは1980年チャーター、その翌年から連続して日本区最優秀クラブ賞、CS事業賞を受賞するなど目ざましい活動の実績をもつクラブ。そのクラブ運営の真髄をご教示願ったものだが、確信にみちた熱気あふれるお話の数々に一同感嘆するばかりであった。

- (1) Y'S活動の原点は親睦にある。親睦から生れるクラブエネルギーが奉仕の心を生むのだ。
- (2) 出席率向上に格別のノウハウはない。たゞたゞ楽しいクラブ作りあるのみ。クラブが楽しくなれば自然に出席率が上がる。
- (3) クラブを楽しむためには“みんなでやる”クラブであること。全員参画のクラブ運営は例会だけではだめだ。各委員会の活動を中心にする。又委員会相互の交流も活発にやる。各家庭でもたれる委員会交流を通じて、メネットもまき込んで家族的親睦を深める。この親睦から生れるエネルギーがクラブの原動力となる。
- (4) クラブ発展の基本はEMCのMをまず確立することがすべての中心になる。そのための工夫を、各クラブ特有の事情をふまえて徹底的に考えること。

概ね以上のような示唆に富んだお話を、京都ウエストの実際例を紹介しながら披れきされた。

出席率は100%が当然で月2回200%出席を前提にしていること。活動資金の確保も全員が汗しての販売活動が中心で、みかん・古新聞・チャリティーバザーなど。特に十勝じゃがいも販売では60万~70万の資金を生み、この資金が裏付けとなって次の事業が展開される。等々……

最後にわが杉本EMC委員長から「11月は100%出席にチャレンジしよう」との提唱がなされて閉会となった。

▽会員消息 — 勤務先変更のお知らせ

堀 利満君・中野 豊君

(株) 太平洋・パシフィックツアーズ

〒530 大阪市北区堂島3-2-10 梅田橋ビル

TEL 06-453-5001

アジア映画祭を開催して

YMCA国際・社会奉仕センター 真嶋 克成

私達がアジアの現状を知るとき、これらの国が抱える貧困や様々な社会問題、そこに生きる人々の生活をぬきにしては語れませんし、伝統にはぐくまれたすぐれた文化に思いをはせます。その意味で、今回のアジア映画祭はアジアの人々とのコミュニケーションをはかり、正しい認識を深めるために役立つものと思われまます。

9月24日、松竹映画監督の山田洋次氏を迎え「世界の映画の中のアジア映画」と題して講演を頂きました。その中で「この映画祭に上映される映画のモチーフがアジアの貧困と様々な社会問題にすどく迫っていること、又、殆どどの映画が300万円から1000万円以内で出来ていること、世界の映画市場でアジア製作品数が極めて多いのにかゝらずなかなか観る機会が少なく、あまり関心のない事が残念だと述べられました。今回もあまり多くの人が観に来られず残念でしたが、長く、地道にこの種の催物を開催してゆくことが大切だと痛感しました。

＜鋭視野・ASIA＞

カンボジア難民村を訪ねて—その2—

国連が難民に食糧を配給しているのは周知のことだが、それは身長110センチ以上の女子に限られている。男子は準戦闘員とみなされて、対象外だ。110センチという身長も、以前は120センチだったのが、栄養上態の悪いカンボジアでは厳しすぎるというので、10センチ下げられた。母親がもらえる1週間に2.7キロの米で、数人家族がやっと飢えをしのいでいるのが現状だ。子供への粉ミルクの支給にも、身長、体重、手首の細さなどに基準がある。手首の、ほんの数ミリの違いで基準から外れた子の前で、同じようにやせた子どもがミルクを飲む。少し成長すれば支給を絶たれる。

命からがら逃れてきて、国連の出先機関に登録され、米の配給を受けられるまで三週間。その間、先住の難民は自発的に米を出して、新しい住民を支え合う。チャンカイチェックは昼食時だった。しょうゆで色のついたかゆに、一、二片の野菜が入っているだけ。それがすべてだ。

戦争さえなければカンボジア人は飢えたりしない。米が年に三回も収穫できる国なのだ。この戦争の原因は複雑で、私たち日本人には理解し難いが、戦争が普通の市民を苦しめるのは、カンボジアも例外ではない。

私たちは過去四年間、毎月150万円分の救援物資をタイで調達して三派連合政府配下の難民村に送り続けている。その大半は医薬品や医療器具、米、塩、野菜の種など。目的はあくまで、彼らの自立を手助けすることにあるが、チャンカイチェックの惨状を見て、通常の援助とは別の、緊急食糧援助を約束せざるを得なかった。それほど状態は悪化している。それもアジアの一角でのことなのだ。緊急援助にご協力を

【カンボジア難民救援会(KRRP)】

606 京都市左京区聖護院東町10 国際学生の家内。TEL 075-791-4078】(朝日新聞掲載)

IBC・NUUANU Y's だより

▽ヌアヌ・クラブのブリテンよりハワイ太平洋集会の模様をお伝えします。

1983 PACIFIC CONVOCATION

The 1983 Y's Men Pacific Convocation was held on August 4-7, 1983 at Camp H R Erdman. Fifty nine delegates participated in our fourth Convocation. The delegates were from Japan (4), Hong Kong (1), Taiwan (16), Australia (1), California (6), Hawaii teens (12), and Hawaii Y's Men (20).

After an initial orientation and a get acquainted program, the group, under the able leadership of LOU ANN GUANSON (Kaimuki Y's Men) and ANNA ROSE BRYANT (East Kauai Y's Men) began the main program with the theme of Human Explosion 1983. Highlights of the extracurricular program was:

- a) morning exercises—
by JIM KANEHIRA of the Windward Club
- b) International program—all groups
- c) disco dancing—by Nuuanu Youths
- d) campfire—by Windward and

East Kauai Y's Men

We hope the action plans of the individuals will sprout and grow. (Many thanks to our Nuuanu youth delegates: SHANE HEIRAKUJI, ANDREW AOKI, MATHEW CHUN, and CURTIS CHUN.)

▽ヌアヌYMCAのプログラムを伝える記事の一部もご紹介しましょう。

SMOKE GETS IN OUR EYES—BAR BQ CHICKEN

Sept. 25, 1983, was once again CHICKENDAY for the Club. Seven thousand chickens were cooked and sold this year. The activity, which was jointly held with the Windward Y's Men's Club, took place at the Nuuanu YMCA's parking lot. It all began at 5:30 a.m., which involved the setting up of the barbecue pits and burning the keawe chacoals in the pits. This was followed by "wracking" the chickens onto the wire screens, placing screens onto the pits. Then followed by the packers, who packed the cooked chickens individually into plastic bags, and finally, the cashier, who coordinated the cash sales and runners. In the process, we also sold 250 sushi's that sold for \$2.25 each.

§一枚の写真§



山中 秀男
1977年、8年間の滞米生活を終え帰国の途中、長年の友人であるメアリー・ラブさんを、テキサス州・ガルベ斯顿市に訪れた。

ラブさんは名神高速道路建設に際し日本道路公団が米国から招いた、高速道路

建設技術のエキスパート、アルバート・ラブ氏の夫人だ。ラブ夫妻とは、京都に住んでおられた時から家族ぐるみでお付き合いしていたので、お別れの挨拶かたがた立ち寄ったものだ。

帰国の時、長い滞米生活のお礼と記念を鯉のぼりに託そうと2組取り寄せ、1組は子供達が通学したニューヨーク州ヨンカー市第21小学校に、Japan Dayを設けてもらって寄贈し、もう1組はラブさんの住んでいるテキサス州最古の歴史都市、ガルベ斯顿市歴史博物館に寄附した。

これは、その時ガルベ斯顿・デイリー・ニュース紙に載った写真で、我が家族全員が館長のパット・フィネル女史を囲んでのものだ。ガルベ斯顿市はヒューストン宇宙センター近くの港町で、昔は綿花と石油の取引で賑わったが、今では専らテキサス大学医学部やけど治療研究所の所在地として知られ、日本からの研究者も多数滞在している。

————— <YMCAニュース> —————

▽YMCA・YWCA世界祈禱週

毎年11月に世界のYMCAとYWCAは合同祈禱週を守っておりますが、今年は11月13日～19日の1週間「キリストと共に働く」をテーマに世界の人々のために祈ることになっています。とくに第1日(本年は11月13日)を平和の日と定めています。どうぞこの事を覚えて、共に祈りましょう。

▽世界祈禱週記念行事

当奉仕センターでは今年の祈禱週を記念して、アジアキリスト者美術展と特別講演会を開きます。美術展は11月15日～22日の1週間開かれ希望者には販売もされます。

また講演会は11月17日(木)夕6時より同志社大学竹中正夫先生を迎えて、アジア民衆のねがいについてお話を伺います。どうぞ来場下さい。

▽大阪YMCA新会館来春3月オープン

目下建築中の大阪YMCA会館は順調に工事が進められ、いよいよ来春3月初旬に竣工開館のはこびとなりました。既にパンフレットも出来上り、10月1日から募集・予約受付がはじまりました。